

# 今すぐ危険な万博中止を

## 世論と運動を広げよう



7月13日、「万博中止大宣伝」に住民団体や労働組合から40人が参加しました（あべのキューズモール前にて）

万博開幕まで残り9ヶ月。ガス爆発、子どもの万博遠足、膨れ上がる会場建設費、パビリオン建設の大幅な遅れなど不安いっっぱい。災害時の避難計画もなく、「こんな危険な場所でなぜやるのか」と疑問の声も。くしくし応援と能登地震の復興支援こそ最優先です。

# 来年は被爆80年 核兵器のない平和な世界を

今年も「国民平和行進」で多くの参加者が横断幕や組合旗をかかげ、沿道から平和をアピールしながら歩きました。大阪自治労連婦人部は、毎年恒例のフラッグをリレーでつなげることができました。



6月30日「柏原-東大阪コース」



7月1日「河内長野-松原コース」



7月2日「泉佐野-和泉コース」



7月6日「高槻-吹田コース」

# 大阪・近畿の仲間みんなで作る楽しい活動へ



村田 一輝さん 自治労連 近畿ブロック青年部事務局長(枚方市職労青年部長・左)

中山 拓弥さん 自治労連 近畿ブロック青年部幹事(岸和田市職労青年部長・右)

## 「全国青年部学習交流ツアー」に参加してどうでしたか？

7月7日の自治労連近畿ブロック青年部定期総会で、役員に選出された二人。村田さんは6月22日・23日に開催された自治労連「全国青年部学習交流ツアーin岩手」に参加し、中山さんは「私の生活証言・家計簿調査」にチャレンジしました(2・3面に掲載)。そんな二人に青年部活動への思いを聞きました。

村田 初日は、岩手自治労連の新沼書記長から東日本大震災から得た教訓について、講演を聞きました。当時の避難所では、自分自身も被災者のため、家族のことが気がかりのまま職務にあたりたり、昼夜を問わない家族の安否や物資の問い合わせ、「役所は何をしているんだ」というクレーム対応に、疲労はピークをこえていたとのこと。今の枚方市

バイク・音楽・アウトドアが好きで、宇治で開催されるフェス「京都大作戦」にほぼ毎年参加している村田さん。中山さんはサバイバルゲーム(自身で主催も)・アニメ鑑賞・ゲーム・カメラが趣味

## 青年部活動でよかったこと 苦労していることは？

中山 岸和田市職労では、コロナ禍で新採歓迎会を4年近く開催できていませんでした。コロナの影響もおさまってきた一昨年から再開したところ、参加人数は少なかったですが「とっても楽しかった」との反響が多くて、やってよかったです。一方で、せっかく組合に入ってくれたのに、しばらくして脱退する人が増えていること。また、役員がなかなか交代できなくて…。いろんな意見を取り入れて、みんなで協力してつくり上げていく活動をめざしていますが、苦労しています。

の職員体制では避難所が運営できないと思いました。2日目の東日本大震災津波伝承館と旧気仙中学校の見学では、校舎3階が津波に飲み込まれた現場を目の当たりにして(右下写真)、日頃から大災害に備える必要性を感じました。職員を増やして災害が起こった時はすぐに対応できる体制の確保と、地域の民間企業との連携も欠かせないと感じました。

## これからのことや近畿ブロック青年部への期待は？

村田 枚方の青年部では、みんなが楽しいと思うような活動を心がけてきましたが、全国交流ツアーに参加したことで、自治体労働者として様々なことを勉強したいと思いました。近畿ブロックでは、いろんな職種のいろんな人たちが関わられるような企画をたくさん考えていきたいと思っています。精一杯がんばります。中山 勉強会だけだと「ためにはなるがつまらない」「乗り気になれない」という人が多いと感じます。遊びや興味をひくことを企画しながら、その場で時間をとって労働組合について知ってもらおう…というような「楽しい勉強会」をみんなでつくり、組合活動に積極的な人を増やし、職場環境を改善させたいです。近畿の青年の力を借りながら、要求を実現していけるように一緒につくり上げていきたいです。



東日本大震災で被災した状態のまま保存されている旧気仙中学校で、当時の状況を聞きました(6月23日)